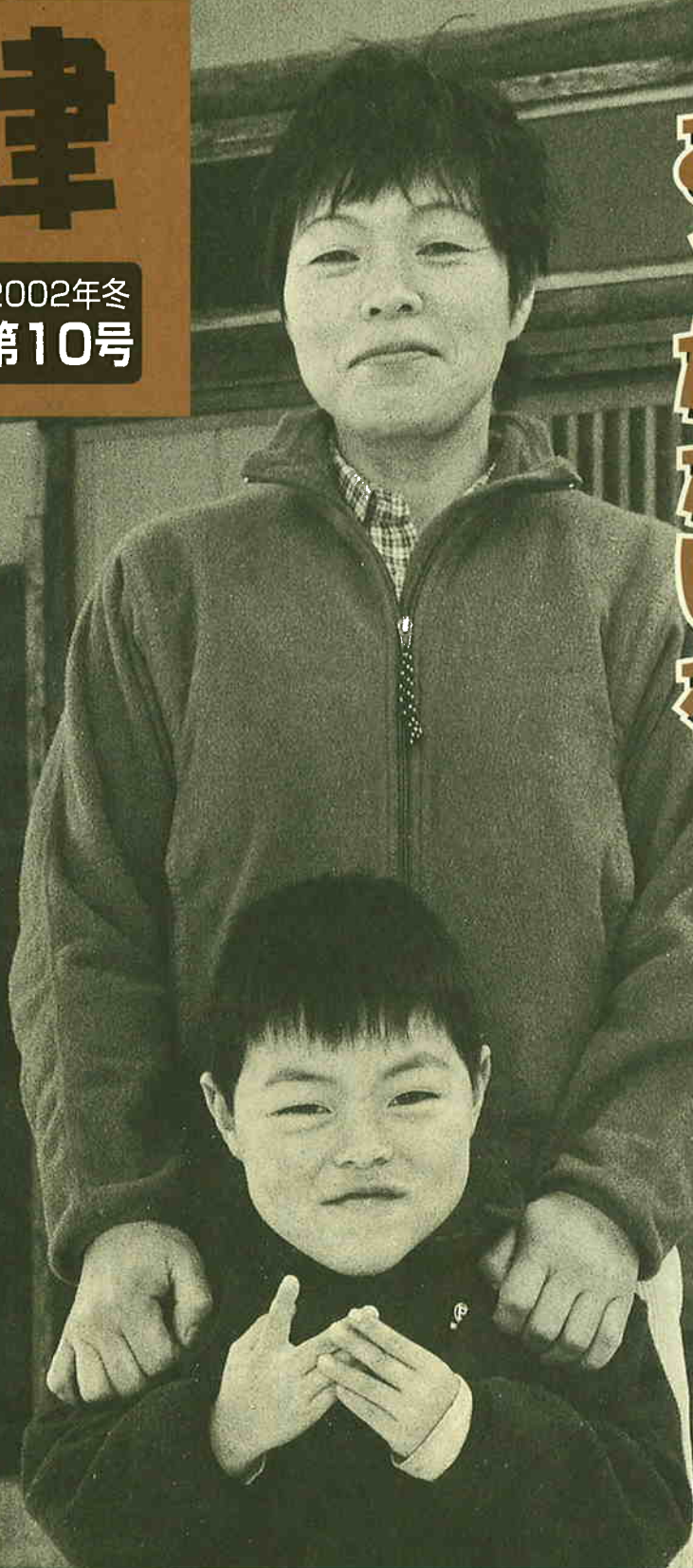


奥会津 だより

2002年冬
第10号

お母さんの手、
あつたかいね。



写真：こじまじゅん

第六回「歳時記の郷・奥会津」全国俳句大会 小中学生の部準賞「二席
向日葵の笑顔が夕日がつれていく

空山一中 栗城 麻衣

「只見川電源流域 振興協議会の歴史」⑤

平成十二年度から始まった協議会第二期事業のテーマは「環境の保全と交流」です。

今回から、その中の「交流」に焦点を当ててご紹介します。奥会津のPRと広域交流を目的に行われている事業にウォーキング大会があります。山に囲まれ自然豊かな奥会津は、ゆったり歩いてこそ良さを味わっていただけますし、健康増進・環境保全の視点からもウォーキングは最適です。

平成十三年度ウォーキング大会は域内3箇所で開催しました。「歴史と文化の柳津ウォーク」(柳津町)、「会津高原しらかばツアーデーウォーク」(鉈石村)、「尾瀬街道トレイルウォーク」(奥会津内・徒歩六十キロ+バスツアー)です。来年度は開催地をさらに増やす予定です。どの大会も日本ウォーキング協会の協力を得て進められており、将来、奥会津マーチングリーグとして広く全国にPRしていきたい考えです。

歩くことに関連してエコハイクも行っていきます。環境登山や地元との交流イベントを含め、今年度は4町村で開催しました。

次号に続く。

集落の役割

子供たちに何を伝えるか

農村の価値が今見直されつつあります。私たちの住む農村では、豊かな自然や豊富な食糧、そして、地域の風習が生み出してきた文化など、人の安らぎをささえるさまざまな価値を生み出してきました。

しかし、さまざまな社会環境の変化が山村の生活スタイルを変え、更に、戦後改革に次ぐといわれる地方分権改革によって山村は今新たな地域づくりの直面しています。それは、従来の国の一律したマニュアルに沿ったものから、地域住民の自主的な発想と行動で地域をつくっていくという大きな発想の転換を求められる半面、やっと、地域の個性を出せる時代が来たといえるのかもしれない。

昔の村では「むら寄り合い」や、「ゆい」の精神でお互いを助け合いながら、集落を維持していました。現在の都市社会では、そのような相互扶助の精神は薄れていますが、昔の集落の姿こそが住民主体の地域づくりの実践であり、今求められている分権型社会

の姿だったかもしれない。戦時記の郷・奥会津でも9か町村が協同で活性化のための事業を展開しています。山村僻地・豪雪という厳しい条件の中での地域づくりは低速です。

今後山村地域が豊かであるためには、単に都市化を求めたり、「モノやお金」の価値感に固守しても都会との格差を埋めることはできません。都市に負けない山村の豊かさに目を向けながら、美しい地域をつくることを主眼とした地域づくりを堂々と進めるべきではないでしょうか。そして、なによりも将来を担う子供たちにこのことを伝え、「共に地域を作っていくことの重要性」を呼びかけたいものです。

奥会津研究会

各市町村の取り組み

第2回「奥会津研究会」全体会は、1月17日、只見町の郷・湯村里で行われました。各町村の参加者による盛んな意見交換がなされ、次のような活動状況が報告されました。

●柳津町

「観光ボランティア」の結成と「地ビール」販売

ガイドは現在21名。土日祝日に円蔵寺へ出向き、観光ボランティアを要請される方に対して勉強も含め案内している。地ビールは町内の清水「大清水」を仕込み水とし、「赤べこ麦酒」として会津全域に向け販促中。

●三島町

「写真の里づくり」

三島町の写真愛好家団体「写真道奥（みちのく）21」を中心に、写真を通して奥会津の豊かさ・魅力を伝えることを目的とする。

まずは撮った写真を数多くの場所で開催し、奥会津をPRしていく。

●金山町

「カヌーを中心にアウトドア・スポーツの振興」

H12年から「首都圏交流事業」として沼沢湖でカヌーツアーを実施したのがきっかけ。その後地元でインストラクター養成を実施、その参加者を中心に活動を展開中。町内だけでなく広域

からの参加がある。今後は運営体制づくりが課題。

●昭和村

「交流の場づくり」

村内に「交流の場（喫茶・談話室）」づくりが必要との課題認識あり。しかし空家の賃貸が困難であるなど問題は多い。今後、「交流の場」の方向性や別のテーマ設定の有無など検討が必要。

●只見町

「スノーモービル」

冬の季節に田畑の土地を生かすなどして、スノーモービルランドのようなものができないか考えている。インストラクターの免許を取るためには2年の乗車経験が必要。他町村のスノーモービル愛好者と交流をしながら経験を積んでいきたい。

●南郷村

「若者主体のテーマ」（未定）

商工会・観光協会などの「若者が集まりやすい研究会」づくりの意向があった。

各町村の動向を見たいとの意向もあり、今後の意見交換・協議が必要。

●伊南村

「婦人の活躍の場づくり」（野菜スタンド・特産品開発など）

これまでは大桃地区の若者中心の地域づくりが進められてきた。女性の活躍の場、仕組みがないため、商工会婦人部・農協婦人部などを中心に業種を越えた女性の活躍の仕組みを考える。

●館石村

「中国文化・料理の発掘」

村内に多数住んでいる中国からの花嫁さんや農協婦人部に集まってもらい、「館石で何ができるか」「葉膳料理・中華料理の可能性」などを検討したい。奥会津町村の担当者を中心に「国際結婚問題」にも取り組む方向を模索する。

●檜枝岐村

「観光誘客の企画」

村の基幹産業は「観光」であり、「誘客の企画づくり」が最大の課題。商工会青年部中心に「観光資源開発委員会」（メンバー16人）が設置され、定期的な会合・検討のほか、企画を練り上げるために各地へ出向いて営業活動をしている。新鮮な意見の中から独自の観光をどう盛り立てていくか、話し合いを積み重ねている。



昭和54年・柳津町石坂

宝物って何？

昨年の夏、奥会津の“おいしい水”の正体を探るべく、地域の皆さんに協力いただいた。奥会津各地から自慢の名水を集めていただき、今回は、水の分析をお願いしていた筑波大学の中野孝教博士からの「報告を、速報として一部ご紹介しましょう。」

●奥会津の山はミネラルウォーターの巨大タンク

当初、奥会津で「名水」と呼ばれている30箇所を調査するつもりが、調査に参加いただいた皆さんから寄せられた水は全部で58箇所にも及びました。それらのほとんどは皆さんの集落から程近い場所にある清水や沢水で、中には小学生の調査員から届けられた「ばーちゃん家の水」もありました。

中野博士は予定の倍もあるサンプルを全て分析してくださいました。そしてそのほとんどが、ミネラルウォーターとして市販されている「六甲のおいしい水」や「南アルプスの天然水」に匹敵するくらい、山の岩石に含まれる様々な鉱物（ミネラルとは鉱物のこと）を豊富に含んだ水であることを証明してくれました。奥会津の山々からはいつでもミネラルウォーターが流れ出している、その懐に抱かれて生活している皆さんは、お金もペットボトルのゴミも出すこともなく、いつでもおいしい水を飲むことができますというわけです。

●奥会津のおいしい水には3つの形

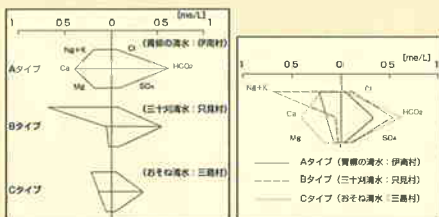
さらに分析を進めると、集められた水は大きく3つのタイプに分かれ、それが奥会津の山々をつくっている地質の違いによるものであることもわかってきました。1つは主に檜枝岐村や伊南村に多い水で、成分を図に示すとAタイプの形になります。このタイプの水を生み出す山は中生代（1〜

2億年前）にできた砂岩や頁岩、花崗岩などの地質でできていて、市販のミネラルウォーターの多くはこのタイプの水です。2つめは只見町、南郷村、昭和村など、只見川の上流や支流の伊南川、野尻川沿いに分布する凝灰岩の分布地から流れ出す水で、成分図はBタイプです。このタイプの水に多く含まれる成分の一部には、凝灰岩が一千万年前に海底に堆積していた時代の海水の成分が含まれているかもしれないそうです。3つめは柳津町、三島町、金山町、館岩村などの火山岩やその噴出物の分布地から流れ出すAとBの中間的な性質を示す水で、成分図はCタイプです。これら3つのタイプの水の存在は、奥会津では今でも地の恵みそのままの水の形になってあらわれていることを示しているのだそうです。

(株)プレック研究所 松井孝子



水の分析実験に取り組む、中野博士と伊南村調査隊



奥会津仕掛け人からの一言

大永貴規さん(只見町・小林)



小さく始めて大きく育てよう！

奥会津の元気づくりに向けて、町村研究会の方たちと話し合いをしています。

ますます厳しくなる経済情勢の中で「元氣の出る話」「地元にお金の落ちる仕組み」を創り出すために、頭を柔らかくして力を出し合いましよよ。

考え方次第、やり方次第で大きな可能性が拓けると思っています。小さなことでよいからまず第一歩を！



トピックス

奥会津世話人登場！

ペンション経営

小林 政一さん (昭和村)



人間にとつて最高最上の生き方は生き方なんだろうかと。奥会津の地域にあって、人が最高最上の生き方を目指し、それが現状であればそれは致し方ないと言わざるを得ない。人が生きる場には風景があり、生産の場があり、暮らしを営む場がある。それが小さな地域もしくは集落や地区であって、行政の単位からやがては奥会津の地域と括られる。

私にとつての人生のテーマ、最高最上の生き方とは、過去ではなく近未来のYesかNoの二つの答えの選択しかない。

平成十四年も開けた一月八日、東京へ。一月九日金山町旧日本名小学校の移築を見に、目黒の平塚幼稚園に行く。この一角だけは私たちの子供の頃の風景があった。樹齢百三十年を経たクスノキの巨木。戦後、古材再利用で建てた分教場の園舎そして本名小学校の校舎。園長先生の案内や説明を聞いて、二時間ほど子供達や父親や母親達を見る。不思議と一時間近くも立ち去らない大人達。それから昼には茨城県下妻にいた。築八十年のおよそ五十坪の木造倉庫を半分解体し、残った半分を、三年後ギャラリーとして再生する。茅葺きのカフェの実現に向けて。

いべんと告知板

第6回 奥会津 フォトコンテスト 入選決まる!

去る1月13日、東京都中小企業会館会議室において、第6回フォトコンテストの審査会が開かれました。審査委員長の竹内敏信先生はじめ上原治雄先生、榊原透雄先生、堀江克彦先生、協議会からは齋藤茂樹三島町長が加わり、厳正な審査、行われました。応募総数は、個人の部140名・作品数530点、団体の部7グループ・作品数62点。審査の結果次のグランプリ作品が決定しました。

個人の部 グランプリ

佐藤 美智子
フォトクラブイオ
他、入賞・入選等多数。

その他の作品については、2月24日の展覧会開催当日に紹介いたします。



歳時記の郷・奥会津写真展
・2月24日～3月24日
・場所 季の里・遊ら里
・入場無料

第6回 奥会津エコハイク

―金山町「雪山ハイクと生活工芸体験」―



今回のエコハイクは金山町にお邪魔します。雪深い地域に入り、都会では経験できないスノーシュー歩きや生活工芸体験などを楽しみます。

この体験プログラムは、東京近郊にはない自然との関わりの中で成立している「こと」や「もの」を、直接現地地元の人々から教えてもらい、体験することが目的です。

どなたでもご参加できます。東京から参加する人には、日本国内でも有数の豪雪地帯で雪と暮らしている地元の皆さんの生活文化や様式について知ることと同時に、同じ体験をすることを通して多様な文化への理解を深めていただきます。

【日時】平成14年3月23日(土)～3月24日(日)

【会場】福島県大沼郡金山町
【日程】(予定) (天候により変更する場合があります)
3月23日(土)
生活工芸体験

・わら細工(わらじづくり)
・蠟燭づくり

・木工細工等(未定)
・スノーシュー試着・散策

3月24日(日)
・雪山ハイキング(スノーシュー歩き)
※場所は雪の状況によって未定

【主催】只見川電源流域振興協議会・日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト
共同開催

【募集人員と参加費】
東京からバスツアーの場合
・コース 東京～奥会津～東京(全コースバス利用)
・募集人員 40名

・参加費 一万円(交通費・宿泊費・保険代・2日目昼食代を含む)
子供(小学生まで) 半額

バスツアー以外の参加の場合、参加費は実費となります。

【問い合わせ先】
東京からバスツアーで参加
日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト(HALT)
担当：沢田

03-3828-6872
0241-54-5222

地元やその他の地域から参加
金山町企画情報課担当：須佐



求められる地域教育

農山村環境での教育の基本的考え方と展開 ①

教育診断研究所主宰(昭和村) 教育施設でらこや塾頭(田島町)

橋本 貞夫

古より昨今に至る「教育の流れ」には幾つもの「激動期・変革期」を経ている。教育に寄せる「希望・期待」「歪み・不安」を交錯させながら、もがき流れてきたのである。この様な状況において今日ほど「地域教育に関心の眼差しが向けられている」ことは、かつてなかったとの認識で、この機会にここで一緒に考え、標題に触れていく。

農山村に生きる子どもも大人もいま「何を受け入れようとしているのか」である。それには、一人ひとり各個人が「何を考えているか」「どう捉えようとしているか」「現状を正確に知らなければならぬ」ということである。

「福祉活動の輪をもっと広めたいのか」「何をどんな事を望んでいるのか」つぶさに把握することが先ず求められよう。状況はどんどん変わっているのである。その変化を的確に捉えることで「発見・見直し」が滲み出てこよう。新しいものだけを取り入れるのではなく、古いものでも良いものよいところを残しながら「何から始めるか」によって、基本も打ち出せよう。

教育は学校任せや特別な人任せを止めて、各々の集落が、地域全体で目を向けあいながら「自分たちの役割を考える姿勢」と「新旧織り混ぜ、融合させること」で第一歩を踏み出すことは難しいことではないのである。ややもすると、これまでの地域から引き離れた教育もこうして解消出来よう。子どもたちが、落ち着いた地域ぐるみの雰囲気(家庭でも学校でも)の中で安心して勉強が出来る状況はここから生まれてこよう。

(つづく)

伊南村好きだよ!



馬場 勝成くん 伊南小学校3年

学校から見る大イチョウの葉っぱが、とってもきれいだよ。
ちょっとは道草したりもする。
お父さんやお母さんやみんながいるところだから、ここは好きだよ。
行って見たいところは、沖縄。島だから。海もあるし。
おつきになったらコックさんになる!
うん。伊南村で。お肉料理作るんだ。
今はお母さんが作ってくれてるけど。お肉大好きだよ。